

a1. チロシンキナーゼ阻害薬

セリチニブ Ceritinib

●ジカディア(ノバルティス)

カプセル：150mg

【警告】1. 専門医療施設で専門医が対応。患者・家族に十分な説明と同意。

2. 間質性肺疾患に注意。発現時は中止。

【特】ALK融合タンパクのチロシンキナーゼ活性を阻害→腫瘍増殖を抑制。

【効】a. クリゾチニブに抵抗性又は不耐容のALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌。

b. 術後補助化学療法は未承認。

【用】a. 750mgを1日1回空腹時に内服。適宜減量。

b. 食後で血中濃度50%上昇。

食事の前後2時間は避ける。

c. 副作用による休薬、減量、中止基準は添付文書参照。

1日300mgで継続困難は中止。

【体内動態】a. ピークは6時間、

半減期は33時間。

b. 主にCYP3Aで代謝。

c. 便へ68%排泄、尿中排泄わずか。

【真】1. 間質性肺疾患、既往歴→増悪。

2. 中等度・重度の肝機能障害。

3. QT延長、既往歴→QT間隔延長

【患】1. 妊婦(ラットで骨格異常)、

2. 避妊させる、

3. 授乳中は禁投与時は授乳中止。

【併】B. 真：a. QT間隔延長薬(アミオダロン、クラリスロマイシン、ドロペリドール等)でQT間隔延長。

b. 徐脈薬(β遮断薬、非ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬、クロニジン等)で徐脈。

c. CYP3A阻害剤(イトラコゾール、リトナビル、サキナビル等)で血中濃度上昇。

d. CYP3A誘導剤(リファンピシン、カルバマゼピン、SJW)で血中濃度低下。

【副】96%】A. 重大：a. ●間質性肺疾患1.4%、

b. ●肝機能障害3.6%、c. ●QT間隔延長5%、●徐脈0.7%、d. ●重度の下痢6%、

e. ●高血糖0.7%、●糖尿病0.7%、f. 肺炎

D. ●感染症(肺炎、口腔カンジダ症、肺感染、鼻咽頭炎等)、●貧血5%、●食欲減退35%、低リン酸血症、視覚障害(視力障害、霧視、光視症、硝子体浮遊物、調節障害、老視等)、心膜炎、●悪心77%、●下痢77%、●嘔吐58%、腹痛、食道障害(胃

食道逆流性疾患、嚥下障害)、消化不良、

●便秘8%、肝機能検査値異常、●

ALT↑37%、●AST↑28%、血中ビリルビン↑等、●発疹9%、血中クレアチニン↑、腎機能障害、腎不全、●疲労20%、